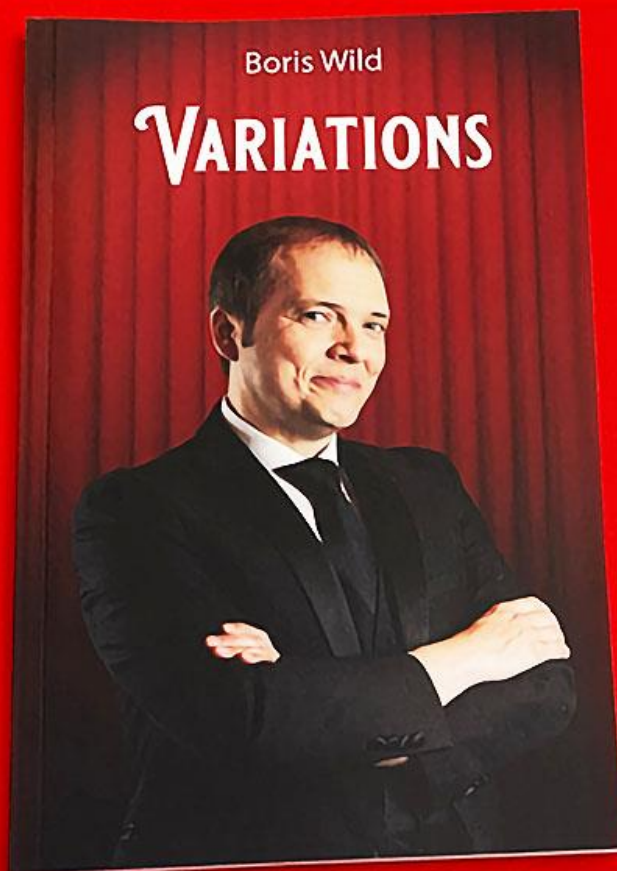


バリエーションズ



VARIATIONS BY BORIS WILD

はじめに

親愛なるマジシャン仲間の皆さん、

この本を購入していただき、有難うございます。この本で学んでいただけるのは、（大げさではなく）私がとても影響を受けた既存のエフェクトをベースに私が構成した7つのルーティンです。

以下の頁で皆さんが見つかるエフェクトは、過去あるいは現在の優れたマジシャン達の肩を借りて出来たものであり、一般の客達へのマジカルインパクトを最大にすることを目標に、その方法やプレゼンテーションの私流のヴァリエーションを作りたいと思ったものです。

これら私のヴァリエーションは、カードマジックの最もポピュラーなテーマのいくつかを扱っています；予言、カード当て、カラーチェンジ、そしてANY CARD AT ANY NUMBERです。それらは出来るだけ使うテクニックを減らし、レギュラーデッキ、それも借りたデッキでも、どんな環境でも出来るようにと考えました。

これ等のヴァリエーションの中で何回か使われる私の好きなテクニックについては、それをまだ知らない人のために巻末に説明しておきました（訳注：「CULL」です）。そのように、ここにあるルーティンを最もうまく演じていただくために必要なものは、すべて解説されています。また、読者がこの本の 7 つのヴァリエーションを出来るだけクリヤーに学べるように、そしてそれにより（実際の演技で）プレゼンテーションに集中して最大限の効果を発揮出来るように、80 枚近くの写真も添えています。

それぞれのルーティンの説明の最後には、あなたがそれを自分のスタイルに出来るように、アイデアやテクニック、プレゼンテーションに関するさらなるヴァリエーションを述べてあります。言ってみれば、「ヴァリエーションのヴァリエーション」です！

私がこの本を書くのを楽しんだのと同じように、皆さんにも私がこれから皆さんとシェアするこれ等ヴァリエーションをこの本から学ぶのを楽しんでもらえたら、と願っています。

皆さんのマジックライフに幸あれ！

2021 年 6 月、パリにて

BORIS WILD

ZOOM 9

（現象）

マジシャンが後ろ向きになっている間に（あるいはこのルーティンの第 1 段の間中、横を向いている間に）、客に自分のデッキの中から好きな 9 枚のカードを取り出してもらいます。そのパケットを裏向きでシャフルしたら、ボトムカードを見て覚えてもらいます。次に「ANIMAL（動物）」とスペルをしながら、1 文字につき 1 枚ずつカードをトップからテーブルに配り出してもらい、残りのカードをその上に置いてもらいます。次に、好きな動物の名前をスペルしながらカードを配り出して、同じ事をやってしてもらいます。続けて今度は「CITY（都市）」、そして最後に「好きな都市名」をスペルしながら、同じ事をやってもらいます。

その間、客は自分の選んだものを口に出して言うことは無く、マジシャンが客のスペリング作業を見ることもありません。こうして客のカードは客の選択によって移動し、パケットの何処にあるかはマジシャンには判りません。客の選択内容を知っているのは客自身しかいません。しかし、その客も、カードが裏向きで移動されたので自分のカードがどこにあるのか、マジシャン同様に判りません。

ここでマジシャンは正面を向き、客がした選択が客のカードがデッキのどこにあるのかをマジシャンに感じさせてくれるはずだと言い、またカードには手を触れないし、フェースを見ることがもしないとも言います。客がカードを 1 枚ずつ裏向きのままマジシャンの前に置いて行きますが、ある所でマジシャンが「ストップ」と言います。客は心に思っているカードの名前を言ってから、ストップがかかった所のカードを表向きにすると、それが正に客のカードなのです！

（背景）

これは JIM STEINMEYER の「THE NINE CARD PROBLEM」を基にしたもので、テーブルで客 1 人を相手にしても出来ますし、「ZOOM 9」という名前の通りカメラを通してでも出来ます。以下に説明するのは、テーブルの客相手のやり方です。もしあなたがこれをオンラインでやりたければ、後記の「ONLINE VARIATIONS」の項を読んでください。基本的やり方はまったく変わりませんが、「ZOOM 9」をヴァーチャルで出来るようにプレゼンテーションの変更点を詳述してあります。

（訳注：「THE NINE CARD PROBLEM」を知りたい方は、FT マジックで販売している JIM STEINMEYER の本「CURIOUS IMPUZZIBILITIES」の巻末に説明しています）

（必要なものと準備）

何の準備も要りません。単に客からデッキを借りて始めます。そのデッキは 52 枚揃っていないなくてもかまいません。ただし、観客の誰もデッキを持っていない場合を考えて、マジシャンは別にデッキを用意しておいた方が良いでしょう。

（演技）

観客に、これから客自身のカードを使い、マジシャンはカードに触らないで行う新しい実験を試みたいと言います。また、客の作業中はマジシャンは後ろ向きになって、カードの方を見ることがもしないのだとも言います。

マジシャンは後ろ向きになるか、横を向いたら、デッキを持った客に来てもらいデッキから 9 枚の任意のカードを取り出してもらいます。その 9 枚を裏向きでシャフルさせたら、そのボトムカードを見て実験の最後まで覚えているように頼みます。客がそうしたければ、そのカードを他の観客に見せてもかまわないと言います。

その客に「これから簡単なゲームをやりたいのですが、そこで 2 つの事をお願いします。そこでのあなたの選択が後で私（マジシャン）がカードを見つけるのを助けてくれるのです」と説明します。また、それらの選択は覚えたカードとは何の関係も無いように思えるものだが、それによって客のことがより良く判り、客のカードを探すのに役立つ、と説明します。

実験を始めますが、まず「ANIMAL（動物）」とスペルすることから始めます。客に「ANIMAL」のスペルに合わせてトップからカードを 1 枚ずつテーブルに裏向きで配り出して 1 つの山を作ってもらいます。

以下省略

VARIATIONS BY BORIS WILD

翻訳： 平賀 義達

編集：（有）フェザータッチ MAGIC

■ この日本語解説書は、あくまでも英書「VARIATIONS」をご購入いただいた方へのサービス原稿となります。日本語解説書単体での販売はできません。また内容についてはフェザータッチ MAGIC が独自に翻訳編集したものです。

日本語の全てのコンテンツの著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。許可なく複製、転用、販売等の二次使用は一切禁止します。

★ 誤字、脱字、誤訳等がありましたら、ご連絡いただければ幸いです。皆さまのご協力ですらに良いものに仕上げる事ができればと思います。

日本語説明書©2021 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：（有）フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP



メール: FT@FTMagic.JP